

【 編集後記 】

昨年秋より編集委員に参加させていただいています。現在は、仕分けで注目を浴びた独立行政法人の研究所に勤務していますが、その前は13年間にわたって、製薬企業で医薬品原薬の物性評価や製剤化研究を行ってきました。熱分析装置は、一連の評価の中で数多く利用する機器の中でも、最も研究者冥利に尽きるもののひとつだと思います。他の評価手段と比べると、熱分析には何でも見えるという長所があります。しかし裏を返せば、それは何かが見えても何を見ているのか分からないという弱点にもなります。新規化合物の熱分析を行うと、頻繁に予想外の現象に遭遇します。そのような場合には、あれこれ温度プログラムを工夫したり、測定途中で止めてパンを開けてみたりなど、謎解きが始まります。粉末X線-DSC同時測定装置に代表される複合装置は、一発で答えを導き出す極めて強力な評価手段となり得るのですが、装置が便利になればなるほど、研究者の創意工夫やノウハウが生かされる機会も少なくなります。医薬品の開発において熱分析は間違いなく必須なのですが、討論会において医薬品関連の発表や参加者が最近少ないのは、そのような技術進歩が、皮肉なことに要因のひとつかもしれません。しかし便利な装置を使うにしても、基本知識がないとそれを生かしきれないどころか、とんでもない誤使用となる可能性があることは、言うまでもありません。熱測定学会に限らず、特定の分析手段に注目した学会は往々にしてマニアックな印象があり、日常業務の一部で使っているだけの者にとっては近寄り難いものです。今後は本誌の編集業務などを通して、そのような熱分析装置ユーザーが、本学会に興味を持つように活動できればと思います。

(川上 亘作)

【複写される方へ】 Notice about photocopying

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写して下さい。但し(社)日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません。(社外頒布用の複写は許諾が必要です。)

権利委託先：(中法) 学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル, TEL. 03-3475-5618, FAX. 03-3475-5619, e-mail: info@jaacc.jp
なお、著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、直接発行団体へご連絡ください。また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡して下さい。

Copyright Clearance Center, Inc., 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, U.S.A.
TEL. +1-978-750-8400, FAX. +1-978-646-8600

2010年度「熱測定」編集委員会

(委員長) 猿山 靖夫

(編集委員) 内山 進, 小川 英生, 川上 亘作, 中別府 修, 宮崎 裕司, 橋本 拓也

(拡大編集委員) 神崎 亮, 清野 肇, 古賀信吉, 橋 信, 松本 里香, 三木 久美子

熱測定Vol.37, No.3, 2010

平成22年6月10日 印刷

昭和52年5月27日 第4種郵便物(学術刊行物)認可

平成22年6月15日 発行

発行人 日本熱測定学会 吉田 博久

事務局 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-6-7 宮沢ビル601

TEL. 03-5821-7120 FAX. 03-5821-7439 e-mail: netsu@mbd.nifty.com

熱測定原稿 e-mail: edit@netsu.org

学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jscta/index.html>

郵便振替口座 00190-5-110303

